



第23号
令和7年
10月20日
発行

会員71名
(9/31現在)

海老名
秋田県人会
046-231-0072

83年の生い立ち、そして今



元事務局長 武田 誠

私は秋田県の県南に位置する雄勝郡羽後町の更なる山奥飯沢にて、1942年10月に10人兄弟のぼつち子で産声を上げました。

当時の故郷はいま考えると想像もつかない部落（集落）でした（クマは出てこなかったけど）。

歩いて5キロ先の中学校に登校するのはこの次で、田んぼ、畑などの手伝いが優先され、修学旅行の費用は自分で調達しなければならず、炭焼きの手



伝い、屋根材に使う杉皮の山奥からの輸送や山鳥や山うさぎ狩りの追手などで収入を得ることはなんでも手伝いました。また、女手一人で私達を育ててくれた母から「誠、本家に行つて米借りてこい」と一升舂を持たされる、そんな時の辛さは今も忘れません。

集落在住同級生の大半が中学卒業で故郷を後にして大都会の東京への集団就職をするという環境でしたが、それでも多くの仲間が間違つた道へ進むこともなく、30年後の同級会で久しぶりの再会では多くの人が

会社や商店の重責を担う立場で頑張っていました。これは東北人特有の勤勉さが評価されて多くの人に認められていたんだと確信できました。

ふと、我が身を顧みると、多くの人に助けられ今日があるのだと心に言い聞かせ、恩を忘れない生き方こそが今日の自分に課せられたのだと言ひ聞かせながら、そのような人生を歌われている北島三郎さんの「最後の花部隊」が大好きで機会があればカラオケで歌わせていただくと、83歳のどうしようもない爺さんです。

感謝の気持ちを地域の方たちと共有するため、国分寺遺跡の盆踊り、地域自治会の夏祭り、正月明けのどんど焼き、そして防犯活動などの行事に参加させていただき、地域の皆様に迷惑を掛けながら頑張っています。

県人会の皆さんには、創立14年の長い間事務局員として9回のバスでの観光地めぐり、なべっこ遠足などの企画・立案に賛同を得て一緒に楽しませて頂いております。

今後も秋田なまりの会話を通してながら愉快な会にしたいと考えております。

今日の「きりたんぼ鍋」は天気にも恵まれず何度か中止の後だけに一層美味しいのではないのでしょうか



秋田県人会の活動

① 日帰りバス旅行実施

6月11日（水）に第9回目の日帰りバス旅行を計画し35名の方が熱海・伊豆方面を散策し大いに楽しみました。

昨年までは雨や参加者数が少なく中止となり鬱憤がたまっていたに、今年は雨模様だったのに、バスから降りると幸運にも傘を差さずとも済んだので皆さんホッとしました安堵のお顔が拝見できました。バス車内でのビンゴゲームで賞品を頂けて、そしてお土産も併せて重い荷物で帰宅できました。来年も連れだつて参加しましょう



② 「えびなみんなの夏祭り」で会員募集

今年で3回目を迎える「えびなみんなの夏まつり」が、7月26日（土）に開催されました。会場は中央公園で海老名駅からのアクセスも良く混雑が予想されました。夏まつりの目玉と言え「盆踊り」。やぐらを囲んで、太鼓の音に合わせて踊る踊りは一夜限り！「新海老名音頭」や若人向きの幅広い曲目で誰でも気兼ねなく参加できます。

そこで、海老名秋田県人会も会員を増やそうと役員が交代で道県人会の一部の場所です掛けをしたのですが、今年は反応がイマイチで会員になられた方はおられませんでした。今後とも懲りずに勧誘に励みたいと思つた次第です。

③ 「なべっこ遠足（きりたんぼ）」で新米を味わう

澄み切った青空の下で（きりたんぼ）を食する「なべっこ遠足」が10月20日（月）に計画されています。秋田のお酒も並べられえろと思ひますので、大いに愉しんで下さい

